



Q 「今やろうと思ったのに」など、何かと「反発するようになりました」。

A 中間反抗期の現れでしょう。

7〜8歳ぐらいになると、「この前までは素直で可愛かったのに」「まだ反抗期でもないのに」と、親にとつて首をかき上げたくなるようなことがあります。

この年齢は、本気で親に反抗しているわけではなく、大人に反抗したくて反抗する時期なのです。「中間反抗期」と呼ぶ専門家もいます。

●「心の離乳期」

外見は反抗していても、心の中では大人に一定の尊敬心を抱いています。これが思春期の反抗期と異なるところで、「心の離乳期」と受け止めたらいいでしょう。だから親は、さらりとかわすのが一番。「この子どもだんだん親離れの時期に入っているんだな」と、成長を確認したらいいのです。

ことにもなります。子供の心は高学年に向かつて成長し、親をよく観察しています。子供の言動が間違っていたら正し、子供に指摘されて自分の非に気づいたら、大人も潔く認めるようにしましょう。親も自分を振り返る余裕が必要です。思春期に難しい状況になっても、学童期の親子関係の土台がある、危機を乗り越えていけるものです。

親が本気になって「何だ、その態度は！」などと、力でねじ伏せるようなことをすると、子供の心を傷付けかねません。そして、そのまま思春期に突入して、反抗期を長引かせてしまう

Q ごほうび目当てではなく、自分から進んで勉強や物事に取り組んでほしい。

A 子供自身が面白さを感じるように転換させることが大切です。

ごほうびは、がんばれるきつかけにはなるようです。ベネッセの調査で、子供が学習面ががんばれる場面を保護者に聞くと、「学習内容が楽しいとき」「物やゲームなど、何らかのごほうびがあるとき」が上位になりました。

目標に達したら「ゲーム時間を延ばしてよい」「旅行で好き

なものを買ってもらえる」など、親との交渉力をつける機会にもなります。

●「内発的動機に転換」

しかし、勉強が難しくなると、目標が到達できないと感じたり、好きで熱心に行っていた行為に報酬が割り込むことで、意欲が

低下したりすることがあります。たとえば絵が好きで描いていたのに、絵を描くたびにごほうびがもらえると、行為が報酬にすり替わり、むしろ意欲が低下するのです。

ですから金銭や物、評価などの外発的動機で始めたとしても、行為そのものを楽しむ、面白がる、といった内発的動機に転換される必要があります。自発的にやるほうが、ずっと意欲が高まりますから。

親も、物で子供を釣っているように抵抗を感じたり、ごほうびで子供の自発性が育つのだろう

Q 夏休みに子供を読書好きにしたいのですが。

A 図書館を利用して、興味あるテーマの本から始めてみましょう。

読書感想文がいやで本が苦手というのでは本末転倒ですね。そこで活用したいのが図書館です。図書館の本なら、途中で面白くないと思っても、負担

になりません。「面白そうな本はどれかな」と、子供と一緒に探してみると、子供の好きなテーマの傾向がつかめるでしょう。たとえばサッカーが好きなら、

●ワンポイント・アドバイス

子育ては「つかず離れず」で。干渉し過ぎず、放任にならない勘どころを磨くには、親にも余裕が必要ですね。

サッカー選手の自伝を家族で回し読みして、感想をシェアしてもおもしろいです。多少難しい表現があっても、興味があれば読み進めることができます。

自然の写真集や生き物図鑑、ふだん手に取らない本なども、図書館なら一度にたくさん借りられるので、関心の幅を広げられます。一緒にページをめくる楽しみもあります。

大人がいいと思っても、押しつけると失敗します。「読ませたい本」ではなく、「読みたい本」です。まずは本に親しんで、「楽しい」と思えるところから始めましょう。

